





但馬沿岸の浅海漁場開発について

水試但馬分場 菅 原

但馬沿岸海域は瀬戸内海入漁の問題等を考慮すると、異なる浅海海域の面積がどうしても地先浅海漁場の非常に少なく、少し沖に出た開港に取組まねばならぬと底質も泥が多くなり海と想われる。国におきかして浅海域における漁業は、沿岸漁場の整備に重点をおき、沿岸漁場の整備を決定し、沿岸漁場の再開発をはかり、一部の本釣漁業を除くこと、みるべき漁業は行なわれていない。

ところが、数年前からの釣りブームにより、但馬海が磯釣り場のメッカのようになり、クロソビアブ、今では遊漁船などは相当前から予約で満員となつてい

る。勿論、遊漁者の満足するところまで遊漁船の満足と遊漁者の満足とを調整する必要があるから、遊漁者の評判により遊漁船を判断することはできないが、漁業者も自分達の漁場として利用し、漁業経営として成り立っていることを考えるべきではないだろうか。

また現在技術的にはまだ解決されぬが、非常に多い日本海が、栽培漁業ならびに地域モノロイ主義による

入漁の問題等を考慮すると、先のポイントを選び潜水観察により初夏から秋にかけての出現魚種および棲息状況の調査を行なう。しかし潜水観察のみでは時間的にかつては、国に對しては、需給調整販売等の関連もあり、予算要求の關係上は75億枚としている。

2. 下物対策 (生産の禁止) 基本的には前年度を踏襲する。 (対象物) 共販単価3円未満か或はそれ以上とするか検討。 (生産禁止の実施方法) 基本的には前年度を踏襲する。 (隔離した下物の処分) 基本的な考え方は前年度より (生産者への補償) ……下物価格 基礎的作成は前年度より (基金の造成) 需販との関連において併用する。

3. 需給調整販売 (集荷と販売) 前年度を踏襲する。 (需販集荷目標) 50年度は計画生産量の10% 51年度は計画生産量の20%

4. 乾りの価格安定基金の造成 (需販の実績を檢討の上決定 (積立率) 49年度の需販集荷物を販売処分した結果をみて、50年度の積立率を檢討する。

5. 国庫予算要求 (国に対する要求項目) (1) 需販に係る価格差補給 (2) 需販事業に係る経費補給 (3) 需販に係る保管、火入施設の設置補助 (4) 漁家経営調査費の助成

6. 共販時期の調整 最終共販の調整 (消費宣伝) テレビスポットCM放映を中心にすでに実施している負担率は、生・販各々共販金額の10/10,000とする。 宣伝費総額予算 176,000千円 (新規需要の開発)

8. 呼称の統一 漁家経営調査 (コスト調査) 漁家経営の安定の基礎資料として全漁連全海苔連と共同実施 51年度より国庫補助事業に移行意図

(参考) 全国のり入札指定商組合連絡協議会からの要求事項 ① 外国産の撤廃 ② 共販条件の改正 (保証金等) ③ 週休制に伴い、入札日を2 回制とすること ④ 検査の徹底 ⑤ 需販の現物は全量を各共販漁連の指定商に販売することと併せて需販についての事前協議と数量の明確化 ⑥ 生産期中の共販は3月未で切上げること ⑦ 消費地共販への出荷拒否 この要求事項は流通業界の考え方の動きを示すもので、我々生産者サイドとしては、当面の一大関心事であり充分なる自覚と理解をもつての業界の将来展望のもとに慎重審議の上処すべきであるとする。

但馬漁連柴山油槽所

燃油タンク施設(五〇〇トン)竣工

港湾道路建設のため既設の施設撤去を要請されこれ

が移設につき計画画を四十九年十月一日着工、五十年六月二十日香住町沖浦カシヤンに完工を見た。

この施設の完成により但馬海区における重油の備蓄に一層の余裕ができる(既設九三〇トン一五〇〇トン計一四三〇トン)こととなるが沖合いかつて漁業の最盛期ともなる種か五日程度の備蓄量にしかならず、今後の燃油対策についても更に一段と強化が必要であると考えられる。

又この施設の特徴は現在盛んに叫ばれている公害対策も考慮して防波堤の外側に建設され、油漏れ防止に万全を期していることが挙げられる。

新施設要目表

一、所在地 香住町沖浦字カシヤン四五番の一四五番の二

二、敷地面積 七五・一八㎡

三、タンク規模 直徑八・七m 高さ一・七m 容積五〇・二八六m<sup>3</sup> 格納油種 容量A重油五〇〇m<sup>3</sup>

一、防波堤不規則六辺形、

昭和50年度のり漁期対策の基本方向について

昭和49年度漁期の計画と実績

昭和50年度漁期の方向

計 画	実 績	方 向
<p>1. 計画生産 (生産量) 需給の均衡を図るため生産目標を70億枚と定め行政の協力を得ながら、全国統一的に実行する。(各県別目標) 過去4ヶ年単純平均生産量として70億枚を設定した。(実施方法) (1) 網数、網目規制、漁期の早期切上げを基本として、各県各共販体毎に実情に即した方法にて実施する。 (2) 新規漁場の拡大、県毎に漁場総面積の拡大は極力行なわれない。 (3) 行政庁(水産庁、県庁)と協議の下に進める。</p> <p>2. 下物対策 (生産の禁止) 生産はしないことを前提とし、出荷されたものについては基金の要付けのもとに全員隔離して別途処分する。(対象物) 共販単価3円未満のもの。(生産禁止の実施方法) 具体的な方策については各共販体と県特に水試の強力な指導による。 (1) 下物は共販において3円の底札を敷き、3円に満たないものは原則的に札を入れさせず入つてもこれを認めない。 (2) 明らかに時価が3円未満と思われるものは市場しない(隔離した下物の処分) (1) 漁期中は流通から隔離して、レギュラー品としては流通させない。 (2) 新規、用途、新ルートを通じて販売する。(場合により廃棄処分もある。) (3) 隔離した下物は、同一漁期中共販には再び市場しない(生産者への補償) ……下物価格 (1) 最低1円保証(仮払を行う) (2) 1円以上に販売された時は精算(生産者へは3円6銭までが限度とする) (基金の造成) 需販との関連において併用する。</p> <p>3. 需給調整販売 (集荷と販売) 乾りの価格安定基金の要付けのもとに全漁連が共販価格で買取り端境期に放出。(需販集荷目標) 49年度漁期共販量の2%相当量とする。 全国計画数量 128,336千枚 本県計画数量 12,400千枚</p> <p>4. 乾りの価格安定基金の造成 (目的) ……需給調整販売に係る差損の規模差益の受入 (会員) ……各共販漁連と全漁連 (事業) ……積立金の徴収、差益の交付、差損補填差益の受入 (積立金) ……積立者=各共販漁連と全漁連 率=共販漁連は全共販金額の0.2% 全漁連は需販金額の0.2% 持分=各会員にあり (補填) ……対象=需販および下物処分による差損 限度=なし(次年度に繰越) 補填額=買取価格+全漁連手数料+販売経費-販売価格 (持分の増減) ……持分比による。</p> <p>5. 需給調整販売に係る国庫助成要求 (国に対する要求項目) (1) 需販に係る価格差補給 (2) 需販に係る経費補助 (3) 需販に係る保管、火入施設の設置補助</p> <p>6. 共販時期の調整 共販の始期 11月15日以降 共販の終期 4月30日以前</p> <p>7. 消費対策 (消費宣伝) (1) 「日本の味の普及会」により行う。 (2) 負担率は生・販各々共販金額の5/10,000とする。(消費単位の増大) 加工のり(1袋の入枚数)の増加促進 (新規需要の開発) 新規用途、潜在需要の開発をすすめる。</p> <p>8. 呼称の統一 のり規格、基準の統一を目指し、当面は呼称統一を49年度漁期より実施する。</p>	<p>1. 計画生産 (生産量) 全国的に網数の規制、持網制限、下物生産規制等を各県の実情に即した方法で計画生産体制を確立して漁期をスタートとしたが、海況不良による生産不振に加えて漁害等により漁期前において各共販体別目標生産量の修正を行った。 * 全国 網数 48年度の10%減 4,300千個 計画生産量 70億枚 実績生産量 67.2億枚 削減生産量 2.8億枚の減 * 本県 網数 48年度の15%減 46千個 計画生産量 5.88億枚 (6.2億枚) 実績生産量 5.50億枚</p> <p>2. 下物対策 * 全国 隔離された下物の数量 7,449千枚 (12共販体) 焼却処分された数量 213千枚 現在の在庫数量 7,236千枚 (参考3円以上5円未満の数量425,000千枚) * 本県、下物についてはなし (隔離した下物の処分) 現在隔離されている7,236千枚については再度整理のうえ不向きな物は7月以降に海苔部会の議を経て焼却処分の予定。(生産者への補償) ……下物価格 仮払額 ……7449千円 精 算 ……部会の決定にしたがって処理</p> <p>3. 需給調整販売 (集荷販売) (1) 買収方式をもって50年1月より実施。当初集荷ロットは1銘柄10ケース単位としていたが、生産量との関係で修正する必要がでた。したがって、2月24日の海苔部会で集荷ロットは1銘柄1ケース以上とした。 (2) 販売については、集荷数量の20%程度を7月に日生協等に直売残りは8月より放出する。(入札) (需販集荷実績) * 全国 国庫補助対象 9,785千枚 (4月共販分) 補助対象外 95,519千枚 (3月共販以前の分) 計 105,304千枚 (金額約14億円) * 本県、実績数量 11,916千枚 (金額約171,000千円)</p> <p>4. 乾りの価格安定基金の造成 (設立) ……昭和49年11月1日 (会員) ……28漁連と全漁連 (積立金) 全国積立金額 145,393,047円 49のり年度需販基金 278,658,093円 48年度までの共販基金 424,051,140円 計 848,102,280円 本県積立金額 49のり年度需販基金 14,208,771円 48年度までの共販基金 24,283,390円 計 38,492,161円 (積立金は漁連負担において積立)</p> <p>5. 需給調整販売に係る国庫助成 (国庫助成) 需販に係る経費の%補助を獲得 補助金 65,183千円 保険料 5,238千円 補助 保管料 17,813千円 火入料 92,350千円 入庫料 1,111千円 計 181,411千円 (対象) 49年度漁期分(50年4月需販対象分) 50年度漁期分(共販量の10%相当の需販対象分) (補助金の交付先) 需販事業の実施体である全漁連に交付</p> <p>6. 共販時期の調整 初共販 49年11月16日(宮城) 最終共販 50年4月30日(兵庫、徳島)</p> <p>7. 消費対策 (消費宣伝) テレビスポットCM放映、店頭用ポスター、車内広告、焼のり試供品の作成等を実施。 宣伝費総額 92,088千円 (本県負担額 3,600千円……漁連負担) (消費単位の増大) 50年7月1日より包装物の1袋の内容量は6枚以上となった。</p> <p>8. 呼称の統一 (進捗状況) 49年度漁期に完全実施 22共販体 50年度漁期に実施予定 4共販体 実施計画のない共販体 6共販体</p>	<p>1. 計画生産 (生産量) 基本的には前年度を踏襲する。(各県別目標) 需給の均衡を基本において、今後の需給の見通しを考慮して決定する。(9月頃までに具体化する) 但し、国に對しては、需給調整販売等の関連もあり、予算要求の關係上は75億枚としている。</p> <p>2. 下物対策 (生産の禁止) 基本的には前年度を踏襲する。(対象物) 共販単価3円未満か或はそれ以上とするか検討。(生産禁止の実施方法) 基本的には前年度を踏襲する。(隔離した下物の処分) 基本的な考え方は前年度より (生産者への補償) ……下物価格 基礎的作成は前年度より (基金の造成) 需販との関連において併用する。</p> <p>3. 需給調整販売 (集荷と販売) 前年度を踏襲する。(需販集荷目標) 50年度は計画生産量の10% 51年度は計画生産量の20%</p> <p>4. 乾りの価格安定基金の造成 (需販の実績を檢討の上決定 (積立率) 49のり年度の需販集荷物を販売処分した結果をみて、50年度の積立率を檢討する。</p> <p>5. 国庫予算要求 (国に対する要求項目) (1) 需販に係る価格差補給 (2) 需販事業に係る経費補給 (3) 需販に係る保管、火入施設の設置補助 (4) 漁家経営調査費の助成</p> <p>6. 共販時期の調整 最終共販の調整 (消費宣伝) テレビスポットCM放映を中心にすでに実施している負担率は、生・販各々共販金額の10/10,000とする。 宣伝費総額予算 176,000千円 (新規需要の開発)</p> <p>8. 呼称の統一 漁家経営調査 (コスト調査) 漁家経営の安定の基礎資料として全漁連全海苔連と共同実施 51年度より国庫補助事業に移行意図</p> <p>(参考) 全国のり入札指定商組合連絡協議会からの要求事項 ① 外国産の撤廃 ② 共販条件の改正 (保証金等) ③ 週休制に伴い、入札日を2 回制とすること ④ 検査の徹底 ⑤ 需販の現物は全量を各共販漁連の指定商に販売することと併せて需販についての事前協議と数量の明確化 ⑥ 生産期中の共販は3月未で切上げること ⑦ 消費地共販への出荷拒否 この要求事項は流通業界の考え方の動きを示すもので、我々生産者サイドとしては、当面の一大関心事であり充分なる自覚と理解をもつての業界の将来展望のもとに慎重審議の上処すべきであるとする。</p>

# 6月の漁況と海況

## ●海況

※播磨灘……2～3日の調査結果では、東部表層19.5～20.0℃中底層17.5℃～18.0℃、  
 平年比較で+0.5℃内外高目、西北部表層20.0～21.5℃、中層16.5～17.5℃、底層15.5℃  
 内外、平年比較で表、中層は+0.5℃内外高目、底層は平年並。中、南部表層19.5～21.0℃、  
 中層18.0℃内外、底層16.5℃内外、平年比較で表層は+1.0℃、底層+1.6℃高目を示し  
 全域にわたって高目に経過している。

※大阪湾西部(淡路島寄り)……19日の調査結果では中、南部各層とも20.3℃、平年  
 比較で中、底層+1.3℃表層+0.8℃高目。北部各層とも20.5℃、平年比較で表層+1.9℃、  
 中層+1.3℃表層+1.1℃をそれぞれ高目を示し、播磨灘同様に高目に経過している。

※紀伊水道北部……19日の調査結果では東部表層22.2℃、中層22.4℃、平年比較で表層+2.0℃  
 中層+2.3℃底層+2.9℃高目、中部表層22.2℃、中層22.4℃、平年比較で表層+2.6℃、  
 中層+2.3℃、底層+2.9℃高目、西部各層とも20.2℃、平年比較で表層+0.8℃、中層  
 +1.6℃高目。本月は播磨灘、大阪湾西部とも高目に経過しているが特に本海域の東、中  
 部での大巾な高水温分布が特徴である。

## ●漁況(概況)

漁業の盛況期中で明石瀬戸及びその東南海域ではイカナゴ船曳網(上旬で終漁)カ  
 タクチラス船曳網、小型底曳網でメイタカレイ、タコ、エビ、アイナメ、アナゴ、一本  
 釣でスズキ、マハル、カサゴ、アコオ、マルアジ、サバ、延縄でアサギ、ペラ、ア  
 マカレイ、流し刺網でキス、マルアジ、吾智網でタイなど、大阪湾中西部海域では小型底  
 曳網でカワツエビ、ハモ、アナゴ、メイタカレイ、タコ、ソフカなど、友ヶ島水道及びそ  
 の南、北海域では小型底曳網でタイ、キス、タコ、アナゴ、シラサエビ、刺網でキス、ペラ、  
 カサゴ、アマカレイ、延縄でハモ、タチウオ、キス、カサゴ、一本釣でアジ、タイ曳網で  
 タチウオ、突棒でタコ、アワビ、サザエ、テングサなど、沼島周辺及びその南、西海域で  
 は、小型底曳網でカワツエビ、サルエビ、キス、グチ、アナゴ、エソ、テナガタコ一本釣  
 でアジ、延縄でエソ、アナゴ、刺網でアカウシタ、グチ、ササエ、エソなど、門司海峡及  
 びその南、北海域では、小型底曳網でシラサエビ、サルエビ、ガサミ、ウシノシタ、一  
 本釣でタコ、曳網でタチウオ、延縄でアサギ、カサゴ、ハモ、刺網でキス、タコ、  
 播磨灘中部海域では、サワラ流し刺網、小型底曳網でエビ、カレイ、ウシノシタ、テナ  
 ガタコなど、東播磨海域では小型底曳網でタコ、キス、ペラ、アイナメ、一本釣でペラ、  
 マルアジ、刺網でスズキ、マルアジなどが各海域での主要漁業とその漁獲対象魚となっ  
 ている。

## ●各地(注以下は1日1隻当りの漁獲量@は1キロ当りの単価、何隻は操業隻数)

※明石浦 イカナゴ船曳網3,000キロ@56.3続(11日まで)小型底曳網メイタカレイ@  
 10キロ@2,300@、⑤5キロ@1,000～1,500、マダコ20キロ@550、エビ6キ  
 ロ@800、アイナメ3キロ@1,000、ハリイカ5キロ@800、15隻(大阪湾西  
 部4隻)、マダコ20キロ@650、アイナメ3キロ@1,000、カサゴ7キロ@大  
 1400@500、20隻(明石海峡東側)メイタカレイ16キロ@1,800マダコ15キロ@  
 750、アナゴ5キロ@800、エビ@5キロ@1,200、⑤5キロ@500、イカ5  
 キロ@800、オコゼ3キロ@1,400、クルマエビ1～2キロ@5,750、35隻(播  
 磨灘東部夜曳)、曳網マルアジ50～60尾、1尾350(自廻280♀)、サザエ  
 20～30尾1尾120(自廻400♀)50隻、各一本釣スズキ8キロ@2,300、30隻、  
 マハル、カサゴ4キロ@1,650、10隻、各延縄アナゴ30キロ@750、5隻、ペラ  
 10キロ@1,900、アマカレイ5キロ@2,000、3隻、ブンチン漕イシカレイ10  
 キロ@2,000@800ガザミ⑤5キロ@200、8隻。

※岩屋 カタクチラス船曳網(上旬)500～3,000キロ@40～490、19続。(中旬)  
 120～250キロ@480、19続。(下旬)0～1,000キロ@280～340、3続。小型底  
 曳網エビ@10キロ@1,600、⑤5キロ@900、⑤5キロ@350、メイタカレイ  
 4キロ@1,550、アナゴ3キロ@700、12隻、各一本釣スズキ4～5尾(自廻  
 1.5キロ)@2,500、15隻。カサゴ3キロ@1,200、アコオ2キロ@2,700～  
 4,000、15隻。各延縄アナゴ50キロ@725、6隻。ペラ30キロ@1,300@900、  
 アマカレイ2キロ@325、10隻。各刺網15～50キロ@1,000、10隻。アイナメ  
 7キロ@800、メイタカレイ、14キロ@1,8001隻、タコ産卵30キロ@775、  
 3隻。タイ吾智網10キロ@4,250、3隻(23日より出漁)。

※飯屋 小型底曳網カワツエビ23キロ@1,300、ハモ10キロ@1,000、アナゴ7キロ@  
 500、メイタカレイ4キロ@1,250、マダコ9キロ@650、ソフカ25キロ@  
 450、45隻。キス流し刺網25キロ@900、5隻。

※由良 小型底曳網、タイ16キロ@4,2005隻、キス3キロ@800、マダコ12キロ@  
 1,000、アナゴ4キロ@1,100、シラサエビ17キロ@1,300、その他15キロ@  
 500、68隻。各刺網キス21キロ@900、15隻。ペラ17キロ@1,100、カサゴ6  
 キロ@900、アマカレイ12キロ@1,600、その他6キロ@800、25隻。各延縄  
 ハモ22キロ@2,400、タチウオ15キロ@400、5隻。キス16キロ@900、7隻。  
 カサゴ15キロ@1,100、5隻。タチウオ網32キロ@500、60隻。各一本釣タイ  
 13キロ@4,500、20隻。アジ16キロ@900、20隻。突棒マダコ7キロ@900、  
 アワビ4キロ@2,100、サザエ10キロ@550、5隻。テングサ採集100キロ@  
 50、13隻。

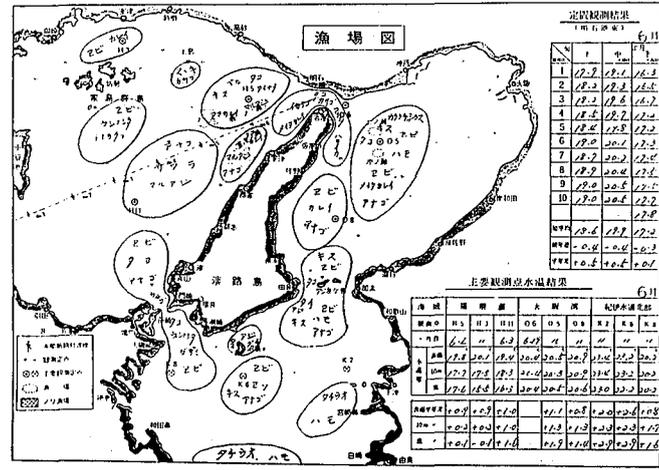
※沼島 小型底曳網カワツエビ(活)11キロ@1,100(死)6キロ@350、小エビ13キ  
 ロ@230、キス4キロ@500、アナゴ3キロ@450、グチ3キロ@200、小エビ  
 8キロ@50、テナガタコ7キロ@120、43隻。アジ一本釣④4キロ@500、④  
 45キロ@400、60隻。延縄アナゴ8キロ@500、エソ55キロ@80、2隻。磯刺  
 網アカウシタ25キロ@750、グチ45キロ@200、サザエ14キロ@550、エ  
 ソ15キロ@60、25隻。突棒サザエ13キロ@550、マダコ5キロ@800@500  
 5隻。

※福良 小型底曳網シラサエビ4キロ@3,500、⑤エビ3キロ@1,500、⑤エビ10キ  
 ロ@260、⑤エビ(活)5キロ@650、ガサミ21キロ@500、ウシノシタ5キロ@  
 680、28隻。タチウオ曳網30キロ@470、70隻。タコ一本釣5キロ@680、19  
 隻。ハモ延縄30キロ@1,450、10隻。タコ産卵120キロ@750、3隻。突棒ウ  
 ニ30箱@500、15隻。

※丸山 小型底曳網エビ20キロ@400、ヒイカ3キロ@300、アナゴ12キロ@3004隻。  
 タイ吾智網12キロ@2,300、4隻。延縄アナゴ20キロ@450、カサゴ20キロ@  
 570、20隻。タコ産卵55キロ@700、7隻。

※五色(鳥飼支所) サワラ流し刺網(上旬)6尾(自廻3250♀)@1,130、23隻。(中  
 旬)4尾(自廻3,360♀)@910、25隻。

●本月の特記事項  
 本年のマダコについては昨年引続き豊漁とくに東播磨先海域(東二見漁協)での沖廻  
 し手網では1日1隻当り80～120キロの漁獲を示し、また門司海峡の産卵でも120キロの  
 豊漁を示しているが全般に小・中タコが主体である。



# 7月の漁況と海況

## ●海況

※播磨灘……1～2日の調査結果では東部表層21.5℃中底層20.7～20.8℃平年比較で  
 表層は平年並中底層は+0.5℃内外高目、西北部表層22.8～24.0℃、中層20.0～21.0℃、  
 底層18.3～19.3℃平年比較で表層は+2.2℃高目、中、底層は逆に-0.2～-0.5℃低め、西  
 南部表層22.6～23.2℃、中層21.5℃内外底層16.4～17.8℃平年比較で表層+0.7～+  
 1.0℃高目底層-1.2℃低目。

※大阪湾西部(淡路島寄り)……21日の調査結果では北部表層24.0～25.0℃、中底層  
 23.2～23.4℃中、南部表層25.5℃内外、中層23.6～24.0℃、底層22.2～23.6℃平年比較  
 で全域表層は+2.4℃中底層+1.5℃内外、前月に続いて高目に経過している。

※紀伊水道北部……21～22日の調査結果では東部表層24.2～25.7℃、底層22.0℃、  
 中部表層23.7～24.4℃、底層20.7℃、平年比較で中、東部各層とも+0.5℃内外高目、  
 西部各層とも23.5℃内外を示し、平年比較で中、底層+1.2℃高目表層は平年並で前月  
 の高水温分布から平年並に戻りつつある。

## ●漁況(概況)

前月に引き続き漁業の盛況期中で、各地とも活況を呈している。明石瀬戸及びその東  
 西海域では、小型底曳網でメイタカレイ、エビ、アイナメ、アナゴ、カサゴ、ア  
 ナゴ、一本釣でスズキ、マルアジ、タコ、延縄でメハル、カサゴ、ペラ、アコオ、グチ、  
 アナゴ、流し刺網でキス、マルアジなど、大阪湾神戸港沖では船曳網でカタクチワシ(小  
 羽)曳網でタチウオなど、友ヶ島水道及びその北南海域では小型底曳網でタイ、タコ、  
 ハモ、エビ、アナゴ、刺網でキス、ペラ、アマカレイ、グレ、延縄でハモ、アナゴ、カサ  
 ゴ、一本釣でアジ、タイ、曳網でタチウオ、突棒でテングサ、タコ、アワビなど、沼島周  
 辺及びその南、西海域では小型底曳網でエビを主体にしてヒイカ、エソ、グチ、一本釣でア  
 ジ、チダイ、イサキ、磯刺網でクルマエビ、アカサガ、グチ、エソ、突棒でサザエ、アワ  
 ビ、タコなど、門司海峡及びその南、北海域では小型底曳網でエビを主体にしてガサミ、  
 ウシノシタ、吾智網でタイ、一本釣でタコ、延縄でハモ、カサゴ、アナゴ、アコオ、刺網  
 でキス、オコゼ、カレイ、産卵でエソ、八田網でアジなど、播磨灘中部では、サワラ流  
 し刺網、東播磨海域では沖廻し手網でマダコを主体にして、ペラ、キス、アイナ  
 メ、一本釣でスズキ、西播磨海域では小型底曳網でエビを主体にしてウミノシタ、カレイ、  
 テナガタコなどとなっている。

## ●各地(注以下は1日1隻当りの漁獲量、@は単価、何隻は操業隻数)

※明石浦 小型底曳網メイタカレイ10キロ@2,300、タコ30キロ@500@400@130、エ  
 ビ6キロ@1,400、アイナメ、アマカレイ、5キロ@1,300、25隻(大阪湾西  
 部)、タコ30キロ、カサゴ8キロ@1,500@500、メイタカレイ7キロ@  
 2,150、アコオ2キロ@4,000、20隻(明石瀬戸)、タコ40キロメイタカレイ  
 5キロ、アナゴ4キロ、@950、クルマエビ2キロ@4,000、45隻(播磨灘夜  
 曳)。各一本釣マルアジ75尾1尾350、65隻、スズキ8キロ@3,750、25隻。  
 タチウオ曳網200～250尾、1尾135、10隻(10日より)延縄アナゴ30キロ@  
 750、カサゴ10キロ@1,500、グチ10キロ、@350、10隻。ブンチン漕、イシ  
 カレイ10キロ@1,900@1,200@600.6隻。

※岩屋 カタクチワシ(小羽)600～1,000キロ@100、6続、小型底曳網エビ、9  
 キロ@1,250@650メイタカレイ10キロ@1,600、タコ10キロ@400、アナゴ、  
 2キロ@920、ハモ2キロ@1,250、30隻タイ吾智網8キロ@3,500、10隻。  
 各一本釣スズキ⑤5キロ@3,250、20隻。マルアジ30尾(自廻300♀)1尾300、  
 65隻、タコ15キロ@400、10隻、各延縄、アコオ7キロ@3,000、1隻。ペラ  
 20キロ@1,000、10隻。カサゴ4キロ@1,250、アナゴ5キロ@500、9隻。キ  
 ス流し刺網13キロ@1,250、6隻。タコ産卵30キロ@570、2隻。

※由良 各小型底曳網タイ15キロ@4,300、3隻。タコ14キロ@700シラサエビ14キロ@  
 2,000、ハモ10キロ@2,100、アナゴ6キロ@800、その他12キロ@400、70  
 隻。各刺網キス22キロ@900、12隻。ペラ12キロ@800、アマカレイ10キ  
 ロ@1,500、グレ7キロ@1,200、その他10キロ@1,000、25隻。各延縄ハモ  
 18キロ@2,500、5隻。カサゴ13キロ@900、アナゴ42キロ@700、6隻。各  
 一本釣タイ3キロ@4,500、30隻。アジ20キロ@700、30隻。タチウオ曳網  
 35キロ@450、70隻。突棒テングサ採集150キロ@50、13隻。タコ8キロ@  
 700、アワビ6キロ@2,000、5隻。

※沼島 小型底曳網カワツエビ(活)7キロ@1,300、小エビ(活)13キロ@430、小エビ  
 (死)30キロ@250、シヤコエビ15キロ@150、アナゴ6キロ@500、ヒイカ6キ  
 ロ@180、エソ@10キロ@70、グチ7キロ@150、43隻。各一本釣アジ@16キ  
 ロ@900、小アジ25キロ@550、タイ6キロ@1,600、イサギ7キロ@1,200、  
 合計65隻、延縄エソ150キロ@90、2隻。磯刺網クルマエビ1キロ@4,300、  
 アカウシタ25キロ@800、グチ20キロ@150、エソ7キロ@60、27隻。突  
 棒アワビ5キロ@2,000@1,300、5隻サザエ、13キロ@600タコ4キロ@  
 800小エビ、5隻。

※福原 小型底曳網シラサエビ2キロ@4,000、カワツエビ2キロ@1,400、雑エビ40  
 キロ@450、ガサミ2キロ@800小タコ@330、アカウシノシタ3キロ@  
 650、36隻。八田網マルアジ250キロ@80、大アジ50キロ@600、2続。タチ  
 ウオ曳網@20キロ@600@30キロ@350、120隻(小松島沖)。一本釣タコ9  
 キロ@510、10隻。タコ産卵120キロ@650、3隻。突棒ウニ35箱@520、10隻。

※丸山 小型底曳網エビ25キロ@400、6隻。タイ吾智網6キロ@2,8005隻。各延縄  
 カサゴ23キロ@810、14隻。アナゴ15キロ@500、2隻。アコオ7キロ@2,800、  
 6隻。各刺網キス25キロ@580、3隻。オコゼ15キロ@2,000、アマ、メイ  
 タカレイ10キロ@800、7隻。タコ産卵70キロ@700、7隻。

## ●本月の特記事項

大阪湾西北部及び沼島周辺で本年も昨年同様「クルマエビ」の漁獲がみられている。ま  
 た県下内海全域で近年姿を消していた「ハモ」の小・中型群が大阪湾中・南部～友ヶ島水  
 道南部海域で操業する小型底曳網に入網がみられるようになり特に由良地区では1日1隻  
 当り10キロ内外の好漁が続いている。

